

## 目 次

〈 年頭所感 〉	
・経済産業省 製造産業局 局長 細野哲弘	1
・日本繊維輸出組合/日本繊維輸入組合 理事長 山本憲一	3
〈 繊維情報 〉	
・2006年11月の繊維品輸出概況(繊維品全体・原料・織編物・主要二次製品)	5
・2006年10月の繊維品輸入概況(繊維製品計・糸類・織物類・衣類)	12
・アジア 中 国 2006年1～10月の繊維品貿易・輸出は依然高い伸びを維持、 輸入は2桁の伸びを記録	15
・米 州 米 国 2006年10月の繊維品輸入、5%増	19
2006年11月の大手小売店販売、2%増	22
・欧 州 E U 2006年1～9月の繊維品域外貿易・輸出は微増、輸入は2桁の増加	24
〈 組合関係の会議と催事 〉	
・(2006年12月)(2007年1月のスケジュール)	28
〈 組合業務報告 〉	
・東京・大阪・名古屋地区で新年賀詞交歓会を開催(輸出入)	30
・3運賃同盟、繊維品のスペシャル・レートの適用期間を延長(輸出)	32
・繊維団体新年名刺交換会の開催(輸出)	33
〈 お知らせ 〉	
・繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出)	34
・「東ティモール」向け保険引受方針の変更(輸出)	35
・2月の輸入通関手続相談窓口開設日(輸入)	36
〈 組合員情報 〉	
・組合員情報	36

# 年頭所感

経済産業省 製造産業局  
局長 細野 哲弘

平成19年の新春を迎え、謹んでお喜び申し上げます。

日本経済は、バブル期以降の厳しい時代をようやく抜け出し、穏やかではあるものの、着実に景気回復を続けております。昨年11月には、戦後最長の「いざなぎ景気」を超え、かつてない息の長い景気回復を見せております。製造業におきましても、各企業の弛まない経営努力と我が国の高いモノ作り技術によって、企業競争力がこれまで以上に強化され、多くの産業では過去最高の好景気を迎えております。このような中で、平成19年新春を迎えることができましたことは、経済産業省製造産業局長として誠に嬉しく思います。

本年におきましても、資源価格の高騰、北朝鮮情勢、為替動向など国内外に不安定要素は残るものの、企業部門の好調さが次第に家計部門へ波及していくことによって、国内需要の拡大が喚起され、更なる景気の拡大に繋がると期待しております。

しかしながら、我が国経済を取り巻く環境を見ますと、必ずしも楽観できる状況ではありません。国内では、世界に類を見ない少子高齢化・人口減少社会の到来、増高する財政赤字など、将来の成長の阻害要因となりうる大きな構造変化に立ち向かう必要があります。また、国外でも、グローバル化の進展により国際競争の激化、東アジア諸国の急速な追い上げ、エネルギー・環境規制の高まりといった大変難しい課題に対応することが求められております。また、企業内においても、昨年頻発した製品事故やリコールなどに象徴されるように、団塊世代の退職を迎え、現場の技術力の低下が強く懸念されております。

このような中においても、我が国の民間研究開発投資の約9割を占めている製造業が、引き続き、我が国経済を支える基盤産業として経済成長の牽引役を担っていくことが重要であり、そのため、製造業の競争力維持強化に向けた施策を重点的に展開してまいりたいと考えております。具体的には、本年も次のような課題に積極的に挑戦してまいります。

第一に将来の経済成長を担う新しいモノ作り産業群の育成に向けて、産業のイノベーションを加速します。

新産業群創出に向けて、昨年策定しました「新経済成長戦略」に示された知能ロボットや次世代航空機、新世代自動車向け電池、がん対策等先進医療技術の開発、宇宙産業や高度な部品・材料産業の競争力強化などを強力に推進してまいります。さらに、国民の健康に向けた取組として、健康関連情報のデータベース化など、健康関連産業の発展に向けた基盤整備等を推進してまいります。

また、ファッションやデザインといった、技術に加え感性によって付加価値（感性価値）を生み出す創造活動を積極的に支援してまいります。ファッションの国際競争力を高めるための取組として、平成17年秋より「東京発日本ファッション・ウィーク」を開催しております。今後ともクリエイティブな発想とブランド力の強化によって、生活文化関連産業の活力を再生するとともに、「ジャパン・ブランド」を世界に向けて発信してまいります。

他方、イノベーションを推進する前提として、安全・安心の確保が不可欠であります。そのため、子どもの安全と健やかな成長発達につながる生活環境の創出を目指したデザイン（キッズデザイン）の普及を図ります。加えて、更なる安全・安心の追求や国際的制度調和への対応のため、化学物質管理の制度体系の抜本的な見直しを進めてまいります。

第二にモノ作りを支える「人財」の育成です。

モノ作りの現場はいうまでもなく人が支えています。人口が減少していく中で、製造業の品質・コスト・安全を追求するためには、モノ作り人材の育成が欠かせません。しかしながら、90年代以降、景気の低迷や従業員構成の高齢化に伴う人件費の増大を受けて、製造業の多くはリストラや採用の抑制、人材育成費用の削減を行いました。

団塊世代が大量に退職すると言われていた2007年を迎えるに当たり、団塊世代の技術や技能がきちんと次なる世代に伝承していけるよう、次代の現場を担う中核的な人材の育成を積極的に進めるとともに、これまでに培われてきたモノ作りの「技」と「匠」に今一度スポットライトを当てるべく、「第2回ものづくり日本大賞」の実施を予定しております。

第三に、経済連携や知財管理の推進によって、製造業のグローバル展開を支援してまいります。

世界経済の一体化が進み、我が国製造業が生き残っていくためには、グローバル市場で国際競争力を強化するとともに、アジアで最適な国際機能分業体制を築いていくことが重要です。そのための基盤整備として、各国とのFTA・EPA交渉を今後も戦略的に進めてまいります。

また、アジア諸国を中心に我が国企業が持てる強みを活かして競争できるような環境を整備するため、アジアを中心に知的財産が保護される法制度の整備、厳格な運用がなされるよう推進してまいります。さらに、模倣品・海賊版の拡散を防止するためのキャンペーンや模倣品・海賊版拡散防止条約の実現に向けて引き続き、取り組んでまいります。

地球規模の課題である環境問題におきましても、国際的枠組みを踏まえ、必要なCO<sub>2</sub>削減を支援してまいります。

経済産業省製造産業局といたしましては、これらの施策を迅速に遂行していくことで、我が国製造業ひいては日本経済の更なる発展を実現していきたいと考えております。

最後になりましたが、本年の皆様方のご健康とご多幸をお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成19年元旦

# 年 頭 所 感

日本繊維輸出組合・日本繊維輸入組合

理事長 山本 憲一

〔 三井物産株式会社 〕  
常務執行役員

皆様、新年明けましておめでとうございます。

平成 19 年の新年を迎えまして、謹んでご挨拶を申し上げます。

さて、日本政府が発表しました昨年 11 月の「月例経済報告」におきましては、2002 年に始まりました今の景気拡大が 11 月で 4 年 10 カ月となり、「いざなぎ景気」(1965 年～1970 年、4 年 9 カ月)の期間を超え、戦後最長となったとの認識が示されました。また、昨年 12 月に発表されました 2006 年 7～9 月期の国内総生産 (GDP ; 改定値)によりますと、物価変動の影響を除いた実質国内総生産は前期比 0.2%増で年率換算 0.8%増となりました。この結果、7 四半期連続のプラス成長となりました。個人消費は、昨年冬のボーナスが 4 年連続で増加するなど、明るい材料も見られます。消費が底堅く推移するかどうかは今後の景気持続のカギを握ると見られます。

我が国の繊維マーケットでは、一昨年に続き昨年も、環境をテーマに政府が提唱しました夏の「クールビズ」、さらに秋口からの「ウォームビズ」は、消費市場に刺激を与え、国内繊維業界にも光明をもたらしております。

また、国際貿易に関しましては、我が国は既に 2002 年 11 月発効のシンガポールを皮切りに、メキシコ (2005 年 4 月発効)、マレーシア (2006 年 7 月発効)、フィリピン (2006 年 9 月調印) との間で FTA (自由貿易協定) 又は EPA (経済連携協定) を締結しており、更にタイ、チリ、インドネシア、ブルネイとの間で FTA 又は EPA 締結で包括合意しております。

FTA 又は EPA 締結でこれら諸国との輸出入関税がゼロになれば、繊維貿易促進に寄与し、日本繊維輸出組合及び日本繊維輸入組合の両組合にとって大きなメリットとなります。今後の我が国の繊維貿易発展のためにも、経済産業省の方々には FTA 又は EPA 締結のため引き続きご尽力賜りますようお願い申し上げますとともに、貿易業界としましても積極的に応分の役割を果たしてまいりたいと考えております。

このような経済環境の下で、我が国の繊維品貿易は、輸出につきましては 2006 年 1～10 月は 66 億ドルで前年同期に比べ 1%の減少となっております。オイル・マネーで潤う中東向けは 21%の大幅増となり、また EU 向けはユーロ高、米国向けは円安の追い風に乗って、それぞれ 3%増、6%増と堅調に推移しております。他方、全輸出の 75%を占め、我が国の輸出動向を左右する最大市場の東アジア向けは 3%減となり、これが全体の輸出減少の大きな要因となっております。とりわけ、我が国の繊維品輸出を主導して

来ました中国向けは前年（2%減）に続き3%の減少となっております。中国向け輸出につきましては、持帰り用素材の現地調達化の進展に伴うものと伺われます。これらの状況から、2006年の年間輸出は前年比1%減の80億ドル程度の微減にとどまるものと予想されます。

一方、我が国の小売段階で消費者の衣料品購買力は数量的には依然足踏み状態ではありますが、輸入品単価の上昇などに表れているように消費動向の変化の兆しもみえつつあります。輸入につきましては、市場対応力と物流拠点の拡充などから中国を中心に輸入品への依存度はさらに高まり、衣類やインテリア用品など二次製品で増加し、2006年1～10月の繊維製品輸入額は241億ドルで前年同期に比べ5%の増加となっております。これを1～12月の年間に置き換えますとおよそ287億ドル、円ベースでは3兆4,000億円となります。

私ども繊維貿易に携わるものは、輸出と輸入の拡大均衡を目指し、伝統ある繊維産業を活性化するため一層努力する必要があると考えますが、このように、繊維品貿易は組合員各社のご努力により輸出入とも堅調に推移しております。

このようななか、輸出組合と輸入組合は、共同事業として「上海分会」を設置し、既に昨年8月と12月の2回にわたって会合を開催し、両組合の組合員の上海企業相互の情報交換と現地の共通する問題への対応等につき検討を行っております。

輸出組合におきましては、日本の繊維産業が持つ高機能・高付加価値商品の輸出拡大のため、昨年9月9日～12日に中国・大連市で開催されました「2006中国（大連）国際服装紡織品博覧会」に組合員などよりの希望企業を募って、テキスタイルの展示商談のため「輸出組合ブース」を設置して出展致しました。

輸入組合では、中国1極集中への対応として繊維品供給先の多角化に資するため、海外の有望な地域の繊維産業調査を継続的に実施しており、昨年は6月にアイルランド、スコットランド、11月末にはタイ及びカンボジアの調査を行い、調査結果を皆様にご報告申しあげました。

また、中国の輸出増値税還付率引き下げや日中航路の付帯運賃問題などへの対応を進めるなど特に対中国の輸入環境の改善に積極的に取り組んでおり、さらに昨年10月には「繊維貿易情報センター」を設置するなど、中国以外の地域も含め組合機能の向上と組合員のサービス強化を進めております。

また、輸入・輸出両組合では、両組合の事務局統合に向けて両組合の業務提携を一層進めております。両組合は厳しい貿易環境の下で事務局機能を統合し、組合業務の効率化と機能強化を図り、組合員の皆様の実際のニーズに応じた事業展開を進める所存でありますので、引き続き皆様のご協力と活発な組合活動を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、ご当局、ご関係の多くの業界の皆様には当繊維貿易業界に対し引き続き倍旧のご指導、ご高配を賜りますよう、宜しくお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝と一層のご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



## ◎ 2006年11月の繊維品輸出概況

### I. 繊維品全体の輸出

－前年同月比4%増の6億6,996万ドルと4ヶ月連続で増加－

2006年11月の繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比4%増の6億6,996万ドル（1-11月前年同期比：横ばい）で、4ヶ月連続で微増推移となった。

なお、為替が2005年11月の118.41円に対し、2006年11月は117.35円と約1%の円安推移に転じたが、円ベースでは3.5%増（同6%増）の786億1,900万円と、2006年に入り、2月以降連続して増加推移が続いている。

#### <主要地域・国別輸出>

11月の輸出を主要地域別に見ると、全輸出の75%を占め、わが国の輸出動向を左右する最大市場の東アジア向けは前年同月比1%減（同3%減）の5億274万ドルとこのところ微減推移が続いているが、欧米、西アジアが前月に続き健闘し、東アジアの減少をカバーした。

東アジアの主要国向けでは、最大市場の中国が微減、香港、台湾、タイ、フィリピン、インドネシアが減少推移となり、その他韓国、ベトナム、マレーシア、シンガポールが好調に推移したが、全体としては微減推移となった。

純輸出市場向けは、シェア4%の西アジアは、サウジアラビアが大きく後退したが、アラブ首長国、イランが共に好調を維持し、全体として27%増（同22%増）の3,256万ドルと依然増勢を持続している。

欧米市場も揃って前月に続き好調な推移となり、シェア8%のEUは、主力の織物類、また原料類（綿・糸）が共に好調に推移し、31%増（同5%増）の5,473万ドルと大幅に増加した。一方、同じくシェア8%の米国も、合繊綿、織物類が大幅に増加し、15%増（同7%増）の5,122万ドルと前月に続き2桁の増加となった。

#### <主要品目別輸出>

これを主要商品別にみると、まず綿類の輸出は、全体としては、数量で6%減（同2%減）となったが、単価の上昇により、金額では9%増（同4%増）と、数量減の金額増となった。

太宗の合繊綿は、数量で4%減（同1%減）、但し金額では11%増（同5%増）となった。

この内、主力のアクリル綿は、イラン、EU、米国が好調に推移したものの、最大市場の中国、インドネシア、タイが減少し、数量で7%減（同2%減）となった。但し単価の上昇により、金額は8%増（同5%増）となった。

一方、ポリエステル綿は、最大市場のタイ、中国が減少したが、マレーシア、インドネシア、トルコが好調に推移し、数量で4%増（同3%増）となった。また単価はアクリル綿同様に上昇し、金額では11%増（同4%増）と2桁の増加となった。

織維品輸出実績（2006年11月）

単位	2006年11月				2006年1月～11月				2005年実績			
	数量		金額		数量		金額		数量		金額	
	数量	ドル	数量	ドル	数量	ドル	数量	ドル	数量	ドル	数量	ドル
織維品総合計	29,004	78,619	669,956	104	373,320	7,276,263	106	100	416,305	890,100	8,070,165	
原料(綿)合計	9,261	78,914	94	109	933,448	98	111	104	107,778	978,717		
スフ綿	5,346	2,200	18,751	101	56,846	201,625	98	110	63,446	23,495	212,920	
合繊綿	21,618	6,893	58,735	96	289,162	714,300	99	112	316,728	81,370	739,213	
(ポリエステル)	3,193	628	5,353	104	42,581	68,158	103	111	45,356	7,900	71,888	
(アクリル)	16,440	5,022	42,799	93	220,311	518,304	98	112	242,939	59,092	536,513	
糸 合計	10,198	8,677	73,942	100	121,224	805,136	101	109	132,208	95,133	864,266	
人絹糸	962	896	7,636	97	10,954	80,388	94	108	12,825	9,694	87,856	
スフ糸	21	39	332	68	266	3,029	92	88	306	430	3,918	
合繊長糸	8,511	6,748	57,505	105	100,313	72,739	103	110	107,118	72,886	662,944	
(ナイロン)	1,849	1,503	12,806	95	21,670	141,340	100	108	23,971	16,878	153,473	
(ポリエステル)	2,628	1,397	11,905	93	34,814	143,802	96	104	39,619	17,695	161,032	
合繊短糸	208	227	1,935	58	3,547	27,560	88	98	4,378	3,565	32,329	
綿 糸	385	404	3,444	68	4,399	29,238	91	92	5,540	4,213	38,008	
織物合計	109,086	31,579	269,097	105	1,096,988	324,473	2,792,778	100	101	1,220,260	359,644	3,257,973
絹織物	577	995	8,478	69	6,961	99,616	92	95	8,261	13,387	121,576	
人絹織物	6,195	2,261	19,270	95	66,677	23,838	205,054	90	105	81,049	25,408	230,287
スフ織物	911	473	4,029	79	8,532	32,592	77	84	12,434	5,172	46,859	
合繊長織物	50,904	11,012	93,835	106	526,166	113,587	978,218	102	104	569,210	121,637	1,100,944
(ナイロン)	6,125	1,383	11,785	119	65,140	13,929	120,030	123	132	58,693	11,881	107,382
(ポリエステル)	39,090	7,676	65,410	103	405,709	83,268	717,203	100	101	447,797	91,064	824,217
合繊短織物	18,968	3,703	31,558	139	161,593	36,709	315,936	108	104	166,976	39,477	358,090
綿織物	27,303	10,074	85,846	96	278,537	844,962	98	100	324,399	112,859	1,023,683	
毛織物	3,961	2,848	24,268	82	45,222	34,254	294,974	91	96	54,172	38,815	350,009
不織布	50,213	5,286	45,048	91	555,208	56,683	487,674	104	113	592,985	55,758	505,607
タイヤコード織物	1,585	218	1,860	183	15,719	2,594	22,311	111	109	15,300	2,565	23,416
コーテッド織物	1,432	3,902	33,250	119	16,336	41,725	359,524	100	107	17,585	42,650	387,386
ニット生地		6,254	53,295	102		65,319	562,452		111		66,435	600,666
アパレル		2,990	25,483	87		37,338	320,900		99		40,709	370,175
その他		10,452	89,067	103		115,264	992,041		107		119,428	1,081,958

(注) 1. 織維品総合計は、HS関税分類11部の合計。  
 2. 原料(綿)、糸、織物合計は分類番号50類から55類までのそれぞれの合計。  
 3. アパレルは61類(ニット製衣類)と62類(布帛製衣類)を合算したもの。 4. その他は、63類及び56類～59類の一部商品。

その他の合繊綿では、ビニロン綿は、主力の EU、また東アジア向けが好調に推移し、数量で 43%増（同横ばい）、金額で 49%増（同 2%減）と数量、金額共に大きく伸長した。

スフ綿は、最大市場の中国が激減したが、EU、南アフリカが伸び、数量で 1%増（同 2%減）、金額で 5%増（同 4%増）と堅調な推移となった。

**糸類**の輸出は、数量で横ばい（同 1%増）、金額で 12%増（同 2%増）となった。

主力の合繊長繊維糸は数量で 5%増（同 3%増）、金額で 19%増（同 3%増）となった。

その内訳は、ポリエステル長繊維糸は、中国、タイは健闘したが、米国、EU が減少し、数量で 7%減（同 4%減）となった。但し金額では単価のアップにより、11%増（同 2%減）となった。一方、ナイロン長繊維糸は、タイ、台湾、米国が減少し、中国、フィリピン、EU は健闘したが、数量で 5%減（同横ばい）となった。但し金額では単価の上昇により 6%増（同 1%増）となった。その他の合繊長繊維糸では、ポリウレタン糸は、香港が健闘したが、中国、その他東アジアが減少し、数量で 6%減（同 11%減）となったが、金額では単価の上昇により 2%増（同 16%減）となった。アクリル長繊維糸は EU が好調に推移し、数量で 8%増（同 17%増）、金額で 24%増（同 17%増）と好調な推移となった。

また、人絹糸は、中国が伸びたが、韓国が大幅に減少し、数量で 3%減（同 6%減）となった。但し、金額では 4%増（同 2%増）となった。

太宗の**織物類**の輸出は、数量で 5%増（同横ばい）、金額で 1%増（同 5%減）となった。

織物の内訳では、中心品目の**ポリエステル長繊維織物**は、数量で 3%増（同横ばい）、金額で 2%減（同 4%減）と数量増の金額減だった。

地域的には、全体の 72%を占める東アジア向けは、香港、韓国、ベトナム、タイ、スリランカが健闘したが、最大市場の中国を始め、台湾、シンガポール、マレーシア、フィリピンが減少し、東アジア全体としては 9%減（同 1%減）となった。

一方、純輸出市場向けは、西アジアは、サウジアラビアは減少したが、アラブ首長国が健闘し、西アジア全体として 60%増（同 10%増）となった。（注：他にイエーメン向けに超安価品が激増しており、統計的に疑義があるので、財務省に照会中）

欧米市場向けは、EU は 23%増（同 14%増）、米国は 7%増（同 14%減）と揃って前月に続き増加推移となった。

**ナイロン織物**は、数量で 19%増（同 23%増）、金額で 26%増（同 25%増）と引き続き好調を維持している。

シェア 85%の東アジア向けは、主力の中国、香港が揃って好調で、全体として 22%増（同 30%増）と大幅な増加を記録した。その他では、シェア 6%の米国が 4%増（同 25%減）の微増となった。

**綿織物**は、数量で 4%減（同 2%減）、金額で 1%減（同 6%減）と低調な推移となった。

82%のシェアを占める東アジア向けは、香港、ベトナム、台湾が好調に推移したが、中国、タイ、韓国、マレーシア、フィリピン、インドネシアが後退し、東アジア全体として 9%減（同 3%減）となった。その他の市場では、シェア 11%の米国は 19%増（同横ばい）と前月に続き

好調な推移となった。

**ポリエステル短繊維織物**は、数量で42%増（同10%増）、金額で8%増（同横ばい）と数量、金額共に増加推移となった。

全体の59%を占める東アジア向けは、香港が減少したが、最大市場の中国またベトナムが増加し、東アジア全体として9%増（同2%増）となった。一方、シェア39%の民族衣装用の西アジアは、サウジアラビアが不振となっているが、アラブ首長国、クエートが大幅に増加し、西アジア全体として109%増（同26%増）と倍増した。

**人絹織物**は、数量で5%減（同10%減）、金額で10%増（同1%減）と数量減の金額増となった。

シェア73%の東アジアは、中国、韓国が健闘したが、最大市場の香港を始め他市場は軒並み不振で、東アジア全体として17%減（同10%減）となった。一方、シェア14%の西アジアは、サウジアラビアが停滞したが、アラブ首長国が大きく増加し、全体として32%増（同10%増）となった。また、欧米市場は、米国は12%増（同11%減）と好調に推移したが、EUは16%減（同13%減）と低調な推移となった。

**毛織物**は、数量で18%減（同9%減）、金額で11%減（同9%減）と数量、金額共に2桁の減少となった。

地域的には、東アジアが97%とほぼ全量を占めている。香港、韓国は健闘したが、中国、ベトナムが大きく減少し、東アジア全体として17%減（同9%減）となった。

**不織布**の輸出は、数量で9%減（同4%増）、金額で10%増（同6%増）と数量減の金額増となった。

全体の55%を占める東アジアは、最大市場の中国は大幅な増加となったが、香港、韓国、タイ、マレーシアが減少し、全体として10%減（同8%減）となった。

欧米市場は、シェア35%の米国は7%減（同31%増）、一方、シェア6%のEUも31%減（同4%減）と共に不振推移となった。

**コーテッド織物**の輸出は、数量で19%増（同横ばい）、金額で21%増（同1%増）と数量、金額共に2桁の増加となった。

全体の82%を占める東アジアは、香港は減少したが、最大輸出先の中国、ベトナム、タイが大きく伸び、全体として25%増（同2%増）となった。

欧米市場は、シェア5%のEUは31%減（同3%増）と大きく減少したが、同じくシェア5%の米国は23%増（同22%減）と前月に続き増加推移となった。

**ニット生地**の輸出は、数量で6%減（同3%増）、金額で2%増（同5%増）と数量減の金額増となった。

全体の約9割強を占める東アジア向けは、主要国では、量的には、香港、韓国、インドネシアが好調な推移となった。一方、最大市場の中国、ベトナム、台湾、タイは減少推移となった。

また、欧米市場向けは、米国は数量減の金額増となったが、EUは、数量、金額共に大幅な減少推移となった。

アパレルの輸出は、金額で13%減（同7%減）と2桁の減少となった。

内容的には、布帛製衣類では、外衣類は、主要国の米国、台湾、香港が大幅に後退し、中国、韓国は健闘したが、金額で24%減（同4%減）となった。逆に下着類は、台湾、香港、韓国、中国が健闘し、金額で25%増（同5%増）となった。

一方、ニット製衣類では、外衣類は、香港、台湾、中国等軒並み振るわず、金額で30%減（同5%減）となった。また、下着類は、台湾が好調に推移したが、香港、中国が振るわず、金額で7%減（同18%減）となった。

その他二次製品は、金額で3%増（同1%増）と堅調に推移した。

## II. 原料（綿・糸）の輸出

### <綿輸出>

合繊綿、スフ綿などの綿合計は、スフ綿が微増推移、ポリエステル綿、ビニロン綿が増加推移となったが、主力のアクリル綿が減少推移となり、全体では6%減の29,004トン、金額については9%増の7,891万ドルとなった。

### 2006年11月の原料（綿・糸）の輸出状況

単位：トン、千ドル、セント、%

	2006年11月				2006年1～11月			
	数量	前年 同月比	金額	単価	数量	前年 同期比	金額	単価
スフ綿	5,346	101	18,751	351	56,846	98	201,625	355
合繊綿	21,618	96	58,735	272	289,162	99	714,300	247
ポリエステル	3,193	104	5,353	168	42,581	103	68,158	160
アクリル	16,440	93	42,799	260	220,311	98	518,304	235
他合繊綿	1,986	111	10,584	533	26,270	101	127,837	487
人絹糸	962	97	7,636	794	10,954	94	80,388	734
合繊長糸	8,511	105	57,505	676	100,313	103	625,916	624
ナイロン	1,849	95	12,806	692	21,670	100	141,340	652
ポリエステル	2,628	93	11,905	453	34,814	96	143,802	413
他合長糸	4,034	120	32,793	813	43,830	110	340,774	777
綿糸	385	68	3,444	896	4,399	91	29,238	665

出所：財務省統計

### <糸輸出>

糸は、合繊短繊維糸、人絹糸、綿糸が不振に推移したが、主力の合繊長繊維糸が増加推移となり、全体では横這いの10,198トン、金額については12%増の7,394万ドルとなった。

### Ⅲ. 織・編物（絹・化合織・綿・毛）の輸出

2006年11月の織物（絹・化合織・綿・毛）の輸出は、ナイロン織物、ポリエステル短繊維織物が好調な伸びを維持、また、ポリエステル長繊維織物も量的に増加し、一方その他織物は伸び悩んだが、織物トータルとしては、数量で前年同月比5%増（1-11月：前年同期比横ばい）、金額では1%増（同5%減）の微増となった。

なお、この織物トータルの中に含まれていない、ニット生地は数量減の金額増、コーテッド織物は、数量、金額共に好調な推移となった。

#### 2006年11月の織・編物（絹・化合織・綿・毛）の輸出状況

単位：1000SM、1000\$、前年比は数量比%

	2006年11月			2006年1-11月		
	数量	金額	前年同月比	数量	金額	前年同期比
絹織物	577	8,478	69	6,961	99,616	92
人絹織物	6,195	19,270	95	66,677	205,054	90
スフ織物	911	4,029	79	8,532	32,592	77
合織（長）織物	50,904	93,835	106	526,166	978,218	102
ポリ（長）織物	39,090	65,410	103	405,709	717,203	100
ナイロン織物	6,125	11,785	119	65,140	120,030	123
合織（短）織物	18,968	31,558	139	161,593	315,936	108
ポリ（短）織物	18,022	29,017	142	151,464	291,518	110
綿織物	27,303	85,846	96	278,537	844,962	98
毛織物	3,961	24,268	82	45,222	294,974	91
コーテッド織物	1,432	33,250	119	16,336	359,524	100
ニット生地	16,120	53,295	94	168,289	562,452	103

(注) 1. ポリエステル（長）、ナイロン（長）織物は、ポリエステル、

ナイロンの重量が全体の85%以上の織物。

2. コーテッド織物の数量単位はトン。

市場的には、織物トータルでは、主力の東アジアは、主要国では、韓国、ベトナム、シンガポールが数量、金額共に前年同月を上回り健闘した。一方、香港は数量減の金額増となったが、最大市場の中国を始め、台湾、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシアは数量、金額共に前年を下回った。特に中国の停滞は先行き懸念材料となっている。

純輸出市場では、これまで好調を持続してきた西アジアは、アラブ首長国は数量、金額共に前年同月を上回り増勢を維持しているが、サウジアラビアは数量、金額共に前月に続き前年同月を下回った。

欧米市場は、EUは主力のポリエステル長繊維織物、綿織物が伸び、また米国も綿織物が好調に推移しており、揃って数量、金額共に前年同月を上回った。

#### IV. 主要繊維二次製品の輸出

繊維二次製品の2006年11月の輸出は、金額（ドル）ベース（以下同じ）で、アパレルは、布帛製下着の増加があったが、布帛製外衣及びニット製外衣・下着が不振に推移し、全体では前年同月比13%減の25,483千ドルとなった。他方、その他の品目については、漁網・その他の網・網地が増加推移、敷物及び細幅織物・紐類が減少推移となった。

#### 2006年11月の主要繊維二次製品輸出状況

単位：千米ドル、金額：前年比%

	2006年11月		2006年1～11月	
	金額	前年同月比	金額	前年同期比
布帛製衣類・付属品	14,865	88	184,495	96
外衣	7,296	74	110,302	96
下着	3,622	125	41,600	105
スカーフ・マフラー	513	74	6,693	91
ニット製衣類・付属品	10,618	87	136,405	89
外衣	4,380	70	51,100	95
下着	3,024	93	54,200	82
敷物	2,497	93	26,169	88
漁網・網・網地	3,413	129	40,701	119
細幅織物・紐類	16,314	98	163,889	95

## ◎ 2006年10月の繊維品輸入概況

### 1. 繊維製品計

10月の輸入は、金額が円ベースで前年同期比118.0%（前月比は98.4%）、ドルベース同114.2%（前月比は97.0%）、数量（重量）同110.3%（前月比は102.6%）と、円金額が15ヶ月連続で増加、ドル金額は8ヶ月連続増加、数量も4ヶ月連続で増加した。前月比は、秋冬物の入荷ピークを向かえ金額は若干減少したものの、数量は増加した。

糸類は数量で前年同期比14.8%増と4ヶ月続けて増加。内訳は、毛糸、綿糸、人織（長）糸、人織（短）糸が増加、絹糸、その他の糸が減少した。織物類は同4.0%と4ヶ月連続で増加した。人織（短）織物、メリヤス生地、その他の織物が増加、絹織物、毛織物、綿織物、黄麻織物、人織（長）織物が減少した。衣類は同11.4%増加となり2ヶ月続けて増加した。衣類を除くインテリア用品等の二次製品は同8.8%増で8ヶ月続けて増加した。

前月は前年同期比で円金額が9.9%、ドル金額が4.3%、数量も3.0%の増加となったが、今月は円金額が18.0%、ドル金額が14.2%、数量も10.3%の増加となり、揃って2桁の大幅増となった。なお、10月の為替相場は前年同月比3.3%円安の118円66銭であった。ドル金額の内訳を見ると、糸類が21.4%の大幅増、織物類は4.3%増、太宗を占める衣類は14.8%増、二次製品は12.8%増加し、繊維製品計では14.2%の増加となった。

### 2. うち糸類

- 綿糸の輸入実績は、トンベースで前月比12.8%、前年同月比も14.2%とそれぞれ大幅に上回り前月比、前年同月比とも3ヶ月連続のプラスとなった。これは、昨年後半以降の輸入の沈静化と国内紡績の工場の閉鎖、減産により7月以降の需給の改善によるものと思われる。輸入綿糸の84%を占める純綿糸の輸入実績をみると、全体では3ヶ月連続の3万梱台となり国別では首位のパキスタンが3ヶ月連続減の4.8%のマイナスとなったが、2位のインドネシア20.3%、3位のインドも1.3%、4位の中国は45.0%の大幅増となった。番手別では20番手中心が3.5%の減少となったものの、30番手中心は30.6%、40番手中心13.7%、40番手以上も8.2%の増加となった。糸種別にみるとカード糸が1.1%の微減となりコマ糸16.8%の増加となった。また、混紡綿糸は45.8%の大幅な増加となった。
- 毛糸の輸入実績は前年同月比重量ベース39.5%増と6ヶ月連続の増加となり、5ヶ月続けて20%を超える大幅増となった。糸種別に見ると、紡毛糸が同38.2%増と引き続き大幅に増加し10ヶ月連続で増加、太宗を占める梳毛糸も同40.0%増となった。国別では、トップシェアの中国が同50.9%増と7ヶ月連続で増加、第2位のマレーシアも同30.6%増加。この他の主要国では台湾、イタリア、ペルーが増加、タイ、インドからの輸入は減少した。

- ▶ 人織糸の輸入実績は、トンベースで人織(長)糸が前月比 7.8%増、前年同月比も 11.2%増とそれぞれ 2 ヶ月連続でプラスとなった。主要商品を前月に比較すると主力商品の台湾を中心とするポリエステル糸が 2 ヶ月連続増の 8.8%、米国中心とするナイロン糸も 0.8%微増の横這い、量的に少ない人絹糸は 22.7%の大幅増となった。一方、人織(短)糸は主力商品の T/C, T/R のポリエステル紡績糸が 1.9%の微増、前月大きく落ち込んだマイヤー毛布用のアクリル紡績糸、ガムテープ、ふすま用のスフ糸はそれぞれ 21.9%、33.1%と大きく増加となり、全体では前月比 12.2%増、前年同月比も 26.5%の大幅増となった。

### 3. うち織物類

- ▶ 綿織物の輸入実績は、面積ベースで前月比 0.5%増のほぼ横這いとなったが、前年同月比は 10.8%の 2 桁の落ち込みとなった。これは、国内の染色、縫製工場の廃業、縮小による素材需要の減少、為替が前年に比べ円安に推移していることによるものと思われる。国別で前月に比較すると、全体の 4 分の 3 を占める中国が 2.7%の減、2 位のインドネシアは 39.9%の大幅増となったものの、3 位のパキスタンが 15.7%の減少となった。品種別にみると、主力商品のポプリンが 3.6%の増加となったものの金巾、粗布・細布は減少した。
- ▶ 毛織物の輸入実績は、面積ベースで前年同月比 16.1%減少し、2 ヶ月ぶりの減少となった。中国からの輸入が同 19.1%減と 3 ヶ月ぶりに増加した前月から再び減少した一方、イタリアからの輸入は 7.5%増とユーロ高の中でも増加し前月に引き続き増加となった。また、第 3 位のイギリスは同 43.0%の大幅減と 2 ヶ月続けての減少。品種別では、紡毛織物が同 2.0%減と 2 ヶ月連続で減少、主力の梳毛織物は同 17.3%減と 2 ヶ月ぶりに減少した。
- ▶ 人織織物の輸入実績は、面積ベースで人織(長)織物が前月比 4.7%の増加となったものの、前年同月比は 5.9%の 5 ヶ月ぶりの減少となった。品目別に前月に比較すると主力商品のポリエステル織物が 4 ヶ月ぶりにプラスの 11.6%増、ナイロン織物は 17.8%の減、ポリプロピレン等其の他織物もわずかに 1.2%の減少となった。国別にみると 2 位の韓国が 25.8%増、首位の中国も 0.4%の微増ながらプラスとなり、ベトナム等その他の国も 13.4%増加となった。一方、人織(短)織物は主力の T/C 織物の増加もありポリエステル織物が 3.3%の増加、インドネシアからのスフ織物も 28.7%のプラスとなり、全体では前月比 10.1%の増、前年同月比も 14.5%のプラスとなった。

### 4. うち衣類

ニット製衣類が対前年同月比(枚数)で 11.3%増、布帛製衣類も同 6.5%増、身の廻り品も重量ベース 13.3%増となり、衣類計で重量ベース 11.4%増加となった。ニット製衣類は 2 ヶ月連続で増加し、布帛製衣類、身の廻り品もともに 2 ヶ月連続で増加、衣類計も 2 ヶ月連続で増加した。

主要国別に見ると

- ▶ 中国は対前年同月比（枚数）でニット製衣類が 12.6%増加し 2 ヶ月連続で増加、布帛製衣類も 6.7%増加し 2 ヶ月連続の増加、身の廻り品も重量ベース 14.5%増で 2 ヶ月連続の増加となった。今年 1～10 月の衣類計（重量）のシェアは前月から 0.2 ポイント上昇し 91.3%（金額ベースでのシェアは同じく 0.5 ポイント上昇し 82.6%）。
- ▶ 韓国はニット製衣類が同 29.2%減少、布帛製衣類も同 42.1%の大幅減となり、ニット製衣類、布帛製衣類ともに 6 ヶ月連続で減少した。
- ▶ イタリアはニット製衣類が同 4.5%減と 4 ヶ月連続で減少、布帛製衣類は同 6.2%増とこちらは 4 ヶ月ぶりの増加となった。
- ▶ ベトナムはニット製衣類が同 29.5%増で 5 ヶ月ぶりの増加、布帛製衣類も同 26.0%増となり 4 ヶ月続けて増加した。
- ▶ 商品別には、ニット製衣類ではコート、スーツ、ズボン、ドレス、アウターシャツ、セーター、下着類が増加、アンサンブル、ジャケット、スカート、スポーツウェアが減少となった。中でも、ドレスは対前年同月比（枚数）で 2 倍超の 239.6%と前月に引き続き大幅増となった。布帛製外衣類では紳士用が同 12.2%増、婦人用も同 8.7%増加した。紳士用では、コート、スーツ、ズボンが増加、アンサンブル、ジャケット、下着類が減少、婦人用は、コート、ドレス、ズボン、下着類が増加、スーツ、アンサンブル、ジャケット、スカート、ブラウスが減少となった。

前月は数量が 3.0%増加、金額も円ベースで 9.9%、ドルでも 4.3%増加となったが、今月は数量が 10.3%増加、金額も円ベースで 18.0%、ドルでも 14.2%増加となり、円安による高い伸びを示した円金額を除いても、10%を超える大幅増となった。

前年の厳冬で冬物在庫が底を尽いたこともあってか、今月はコートなど重衣料で輸入増が見られた。しかし、今年はこれまでこの時期にしては高温の日が多く、冬物衣料の動きが鈍い。11月の百貨店、量販店の売上げを見ても前年比で落ち込んでいる。



## ◎ 2006年1～10月の繊維品貿易・輸出は依然高い伸びを維持、 輸入は2桁の伸びを記録

### 【輸出】

－27%増の1,128億9,256万ドルと依然高い伸びを維持－

主要市場の欧米向けに規制枠が再び設定され、その動向が注目される2006年の中国の繊維品輸出であるが、1～10月の輸出は、前年同期比27%増の1,128億3,673万ドルと全体としては前年同期（23%増）を上回る高率の伸びを維持し、依然好調に推移している。

単月での伸びを見ると、1月の24%増、2月4%増、3月36%増、4月27%増、5月31%増、6月25%増、7月23%増、8月33%増、9月26%増、10月29%増と、2月に一度伸び率は鈍化したが、それ以降は依然大きな伸びを記録している。

### <地域別、国別輸出状況>

地域別では、東アジアがシェア40%（前年同期比18%増）、ヨーロッパが同27%（同45%増）、北米が同16%（同16%増）、西アジアが同6%（同28%増）、中米が同3%（同49%増）、南米が同2%（同47%増）、アフリカが同5%（同33%増）、大洋州が同2%（同11%増）の市場構成となっており、各地域共に軒並み2桁の増勢推移を維持している。

国別では、1位EU（170億2,092万ドル：15%増）、続いて米国（153億7,923万ドル：12%増）、日本（153億130万ドル：8%増）、香港（144億1,847万ドル：23%増）、韓国（43億1,051万ドル：31%増）、ルーマニア（41億3,734万ドル：688%増）、ロシア（35億6,148万ドル：19%増）、カナダ（24億8,422万ドル：49%増）、アラブ首長国（22億210万ドル：16%増）、オーストラリア（19億4,991万ドル：11%増）、トルコ（17億3,551万ドル：222%増）、シンガポール（16億1,286万ドル：31%増）の順で、この12大市場で全体の輸出の75%のシェアを占めている。

2005年は枠が撤廃されたEU、米国向けが衣料品を中心に、特に突出した伸びとなったが、2006年はEU、米国向けに枠が再設定されたこともあり、両国への伸びは大幅に鈍化している。代わって、韓国、香港、シンガポール等の東アジア諸国、ロシア、ルーマニア、カザフスタン等の旧東欧諸国、トルコ、カナダ、中南米諸国等が大きく伸び、EU、米国向けの伸びの鈍化をカバーしているのが、2006年の特徴的な傾向である。

### <品目別輸出状況>

品目別では、中国の繊維品輸出全体の64%を占める最大輸出品目の衣料品及び同付属品は、米国、EU向けの伸びが、枠の再設定により、2005年に比べ大幅に減速しているにも拘らず、

東アジア諸国、旧東欧諸国、カナダ等その他の諸国が大幅に伸び、32%増の721億8,134万ドルと大幅な伸びを記録し、依然中国の繊維品輸出を牽引している。

内容的には、ニット製の衣料品及び同付属品の輸出が42%増の359億8,472万ドルと大きく伸びており、また布帛製衣料品及び同付属品の輸出も23%増の361億9,662万ドルと高い伸びを維持している。

衣料品の主要輸出先は、ニット製衣料品は、トップ市場が日本(58億8,373万ドル:9%増)、続いてEU(45億5,720万ドル:7%増)、米国(43億2,014万ドル:7%増)、香港(39億1,241万ドル:56%増)、ルーマニア(28億8,574万ドル:11倍増)、ロシア(14億9,639万ドル:74%増)、韓国(12億4,639万ドル:43%増)、カナダ(8億8,722万ドル:63%増)、オーストラリア(7億9,705万ドル:6%増)、カザフスタン(7億8,229万ドル:73%増)の順となっており、米国、EUは2005年の激増もあり、低位の伸びに止まっているが、代わって東アジアの香港、韓国、東欧のロシア、ルーマニア、カザフスタン、またカナダ等が激増しているのが注目される。

また、布帛製衣料品の輸出先は1位がEU(76億5,350万ドル:20%増)、日本(67億7,058万ドル:6%増)、米国(63億1,627万ドル:12%増)、香港(32億4,750万ドル:23%増)、韓国(13億5,738万ドル:35%増)、ロシア(12億8,002万ドル:6%減)、ルーマニア(11億5,878万ドル:582%増)、カナダ(11億3,216万ドル:56%増)、オーストラリア(6億7,606万ドル:11%増)、シンガポール(5億8,780万ドル:69%増)の順で、ここでも、米国、EUの減速、一方、韓国、香港、シンガポール、カナダ、ルーマニア向けの増加が目立っている。

織物類の輸出は、太宗の綿織物及び合繊短繊維織物が好調に推移、ポリエステル長繊維織物も堅調で、全体として、数量で10%増の149億7,836万メートル、金額で12%増の142億491万ドルと数量、金額共に順調に推移している。

糸類の輸出も各品目共に好調で、合繊長繊維糸、中でも特にポリエステル長繊維糸の増加が著しく、また太宗の綿糸、合繊短繊維糸も大幅に増加しており、全体として数量で28%増の147万6,279トン、金額で24%増の51億8,155万ドルと、数量、金額共に好調な推移となっている。

綿類の輸出も、ポリエステル綿を中心とする合繊綿、またスフ綿の輸出が何れも大きく伸び、数量で42%増の41万8,568トン、金額で19%増の11億3,471万ドルと、規模は未だ小さいが、高い伸びを記録している。

## 【輸 入】

—綿花の激増により12%増の214億3,165万ドルと2桁の伸びを記録—

繊維品輸入は、織物類は低調であるが、原料類で、国内の綿花不足から特に米国からの綿花の輸入が激増していることもあり、全体として12%増の214億3,165万ドルと2桁の伸びとなった。

この結果、中国の1~10月の繊維品貿易収支の黒字額は前年同期比30%増の914億507万ドルとなっている。

### <地域別、国別輸入状況>

地域別では、東アジアがシェア 68%（前年同期比：6%増）を占め、西アジアが同 3%（同 42%増）、ヨーロッパが同 7%（同 11%増）、北米が同 13%（同 57%増）、中米が同 0.2%（同 48%減）、南米が同 1%（同 26%増）、アフリカが同 3%（同 23%増）、大洋州が同 5%（同 2%増）の市場構成となっており、中米を除き何れも増加している。

国別では、1位日本（29億9,162万ドル：4%減）、続いて台湾（27億9,503万ドル：横ばい）、米国（27億6,934万ドル：60%増）、韓国（22億6,129万ドル：7%減）、香港（15億2,709万ドル：2%増）、EU（13億189万ドル：9%増）、オーストラリア（10億6,542万ドル：1%増）、インド（7億6,372万ドル：233%増）、パキスタン（6億215万ドル：27%増）、ウズベキスタン（4億5,034万ドル：37%増）の順で、この10大市場で全体の輸出の77%を占めている。

### <品目別輸入状況>

品目別輸入を見ると、綿関係では、化合繊綿は低調な推移となっているが、天然繊維は米国、インド等よりの綿花の輸入が大きく伸びており、全体として、数量で33%増の471万3,386トン、金額で29%増の70億5,761万ドルと大幅な増加となっている。

糸関係は、太宗の綿糸が大きく増加しており、合繊長繊維糸はほぼ横ばいで推移しているが、全体として数量で7%増の148万1,036トン、金額も7%増の36億5,160万ドルと数量、金額共に増勢で推移している。

一方、織物類は、綿織物、合繊長繊維織物、合繊短繊維織物等各品目が総じて低調な推移となっており、トータルでは、数量で5%減の35億5,180万メートル、金額で1%減の48億108万ドルとなっている。

その他品目では、ニット生地が金額で13%増の17億4,637万ドル、コーテッド織物が6%増8億8,177万ドルとなっている。

また、衣料品は、額は未だ小さいが、ニット製衣料品が7%増の6億750万ドル、布帛製衣料品が11%増の7億2,777万ドルと何れも増勢基調で推移している。

2006年10月の中国の繊維品輸出入状況

単位：1000ドル

	輸 入				輸 出					
	2005年実績		2006年1月～10月		2005年実績		2006年1月～10月		前年比	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
繊維品合計										
原料(綿)合計	TON	23,446,081	4,416,112	6,817,524	4,713,386	7,057,612	21,431,654	133	129	112
スフ綿	TON	164,419	467,136	99,632	292,968	72	74	74	74	74
合繊綿	TON	835,306	1,381,998	534,321	953,855	75	81	75	81	81
(ポリエステル)	TON	346,184	423,153	219,392	280,204	73	77	73	77	77
(アクリル)	TON	464,623	878,156	294,559	593,611	74	79	74	79	79
糸合計	TON	1,660,050	4,042,957	1,481,036	3,651,596	107	107	107	107	107
人絹糸	TON	26,236	78,212	24,770	72,999	108	109	108	109	109
スフ糸	TON	26,879	89,390	23,672	81,237	100	104	100	104	104
合繊長繊維糸	TON	616,570	1,543,903	495,145	1,288,824	97	100	97	100	100
(ナイロン)	TON	251,020	662,585	224,140	630,704	106	115	106	115	115
(ポリエステル)	TON	295,494	522,692	223,822	402,424	92	93	92	93	93
合繊短繊維糸	TON	149,671	376,436	112,788	309,619	85	93	85	93	93
綿糸	TON	793,656	1,697,154	786,655	1,680,384	121	120	121	120	120
織物合計	千LM	4,638,058	6,009,460	3,551,795	4,801,079	95	99	95	99	99
絹織物	千LM	45,693	117,096	29,612	84,718	90	92	90	92	92
人絹織物	千LM	82,694	122,550	64,411	113,717	93	114	93	114	114
スフ織物	千LM	58,124	100,319	38,330	72,150	79	87	79	87	87
合繊長繊維織物	千LM	2,016,102	2,029,732	1,583,072	1,641,541	96	99	96	99	99
(ナイロン)	千LM	660,899	585,866	457,046	452,963	83	92	83	92	92
(ポリエステル)	千LM	912,650	1,028,690	789,885	845,394	108	101	108	101	101
合繊短繊維織物	千LM	695,082	792,728	509,093	627,514	88	96	88	96	96
綿織物	千LM	1,564,514	2,159,441	1,205,258	1,734,245	97	101	97	101	101
毛織物	千LM	70,407	535,575	57,754	432,860	96	96	96	96	96
不織布	TON	135,081	490,543	126,707	490,098	114	122	114	122	122
タイヤコード織物	TON	18,313	71,770	15,105	60,919	103	106	103	106	106
コーテッド織物	TON	264,082	1,025,710	195,635	881,769	90	106	90	106	106
ニット生地	TON	460,587	1,879,207	407,328	1,746,370	107	113	107	113	113
ニット製衣料			695,240		607,502		107		107	107
布帛製衣料			816,218		727,769		111		111	111
その他			1,597,452		1,406,939		107		107	107
繊維品合計		107,688,506	112,836,728	418,568	1,134,709	142	119	142	119	127
原料(綿)合計	TON	366,255	1,174,664	46,094	71,473	324	294	324	294	294
スフ綿	TON	18,404	30,613	280,236	355,921	141	136	141	136	136
合繊綿	TON	249,556	327,466	244,313	263,783	148	149	148	149	149
(ポリエステル)	TON	209,965	224,833	1,859	4,825	107	135	107	135	135
(アクリル)	TON	2,080	4,332	1,476,279	5,181,553	128	124	128	124	124
糸合計	TON	1,376,620	4,906,807	74,441	270,746	130	133	130	133	133
人絹糸	TON	70,216	248,178	32,821	133,398	124	121	124	121	121
スフ糸	TON	30,579	126,685	465,540	1,072,722	150	146	150	146	146
合繊長繊維糸	TON	381,855	898,133	80,911	281,616	124	125	124	125	125
(ナイロン)	TON	78,816	269,546	326,879	540,009	155	148	155	148	148
(ポリエステル)	TON	260,818	445,658	332,272	967,239	120	118	120	118	118
合繊短繊維糸	TON	325,104	955,133	484,888	1,537,315	122	130	122	130	130
綿糸	TON	469,630	1,400,269	14,978,361	14,204,911	110	112	110	112	112
織物合計	千LM	16,563,084	15,443,436	199,590	635,760	85	109	85	109	109
絹織物	千LM	288,182	721,273	33,706	28,395	118	112	118	112	112
人絹織物	千LM	36,016	31,193	811,068	596,443	108	109	108	109	109
スフ織物	千LM	898,195	660,363	5,354,048	4,031,595	104	102	104	102	102
合繊長繊維織物	千LM	6,144,908	4,716,087	230,502	134,262	112	118	112	118	118
(ナイロン)	千LM	251,307	138,571	4,495,841	3,336,032	105	102	105	102	102
(ポリエステル)	千LM	5,124,232	3,898,319	3,215,626	2,440,282	116	129	116	129	129
合繊短繊維織物	千LM	3,337,745	2,289,888	5,072,058	5,643,692	113	116	113	116	116
綿織物	千LM	5,495,734	6,031,459	85,166	468,525	100	103	100	103	103
毛織物	千LM	99,336	526,030	156,411	363,807	119	125	119	125	125
不織布	TON	160,753	361,112	65,392	208,550	101	93	101	93	93
タイヤコード織物	TON	79,345	273,436	476,268	1,171,930	124	127	124	127	127
コーテッド織物	TON	463,269	1,120,590	938,525	3,833,278	122	127	122	127	127
ニット生地	TON	929,084	3,652,257	30,875,728	35,984,721		142		142	142
ニット製衣料			30,875,728		35,984,721		142		142	142
布帛製衣料			35,038,492		36,196,615		123		123	123
その他			14,841,986		14,556,654		119		119	119

出所：中国海関統計



## ◎ 2006年10月の繊維品輸入、5%増

2006年10月の米繊維品輸入は5.2%増と、本年1月の7.6%増に次ぐ高い伸び率となった。地域別では、中国、インドネシア、ベトナムなど東アジア諸国が大幅に伸び、特に中国は39%の大きなシェアを占めている。

### 【10月の輸入】

米商務省が発表した2006年10月の米繊維品輸入は前年同月比5.2%増の47億1,600万平方メートル換算(SME)となり、4月以降7カ月連続の増加を記録した。このうち、アパレルは12.5%増と、2005年8月(13.3%増)以来の二桁増となったが、ノン・アパレル(糸、織物、その他繊維製品)は0.1%の微減ながら前月に続き減少となった。

地域別輸入では、供給国第1位の中国が、アパレルの大幅増により22.3%増の18億4,700万SMEと、3カ月連続の二桁増となった。この10月の輸入量は全体の39%と大きなシェアを占め、他の供給国を凌駕している。

その他の東アジア諸国では、インドネシアが10.7%増、ベトナムが11.5%増と大幅な増加となり、これら東アジア諸国が中国と共に10月の輸入増加の牽引役を果たしている。

### 【1～10月の輸入】

2006年1～10月の米繊維品輸入は441億2,200万SMEで前年同期比3.1%増となり、うち、ノン・アパレルが250億9,200万SMEで3.8%増、アパレルが190億3,100万SMEで2.1%増となった。

1～10月の主要地域別輸入状況は、以下の通り。

- 主要地域別輸入では、ビッグ4(中国、韓国、台湾、香港)及びアセアン、更に「その他地域」の中のパキスタン、インド、バングラデシュなどの東アジア諸国からの輸入が活発に推移し、一方米近隣のNAFTA(北米自由貿易協定)パートナー(メキシコとカナダ)及びCBI(カリブ海沿岸諸国)は苦戦している。
  
- ビッグ4からの輸入は8.1%増で、全体の43%と主要地域の中では最大のシェアを占めている。このうち、トップ・サプライヤーの中国は米政府の輸入規制により前年同期の45.6%増から8.8%増へと減速しているが、それでも全体の35%と大きなシェアを占めている。中国からの輸入では、織物のみが減少し、糸、衣料品、その他繊維製品は何れも増加となった。その他では、韓国と台湾は織物を中心にそれぞれ8.3%、8.7%の増加となった。他方、香港は、主力の衣料品のみならず、織物とその他繊維製品も低迷し、9.5%の大幅な減少となった。

米国の繊維品輸入推移

単位：100万SME、%

	ノン・アパレル		アパレル		合計	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
2000年	16,829	16.0	16,035	13.7	32,864	14.9
2001年	16,708	▲0.7	16,103	0.4	32,812	▲0.2
2002年	21,033	25.9	17,256	7.2	38,288	16.7
2003年	23,363	11.1	18,864	9.3	42,227	10.3
2004年	26,985	15.5	19,951	5.8	46,936	11.2
2005年	28,829	6.8	22,010	10.3	50,839	8.3
1月	2,257	5.0	1,645	8.5	3,902	6.4
2月	2,206	17.3	1,760	2.2	3,965	19.4
3月	2,340	4.9	1,728	7.0	4,068	5.8
4月	2,341	1.5	1,549	11.7	3,890	4.4
5月	2,544	8.3	1,704	24.2	4,248	14.2
6月	2,488	▲1.4	2,065	19.5	4,553	7.1
7月	2,353	0.1	1,990	7.3	4,344	3.3
8月	2,593	8.2	2,159	13.3	4,752	10.4
9月	2,487	12.0	2,127	8.9	4,614	9.6
10月	2,565	13.8	1,916	6.3	4,481	9.3
11月	2,419	9.8	1,770	8.3	4,190	9.2
12月	2,237	5.7	1,594	5.9	3,831	5.8
2006年	25,092	3.8	19,031	2.1	44,122	3.1
1月	2,504	10.9	1,698	3.2	4,201	7.6
2月	2,153	▲2.5	1,587	▲9.8	3,740	▲5.7
3月	2,362	0.9	1,687	▲2.4	4,049	▲0.5
4月	2,515	7.5	1,493	▲3.6	4,008	3.1
5月	2,706	6.2	1,669	▲2.1	4,375	2.9
6月	2,682	7.9	2,071	0.3	4,753	4.4
7月	2,520	7.1	2,032	2.0	4,551	4.8
8月	2,654	2.4	2,316	7.3	4,971	4.6
9月	2,435	▲2.1	2,324	9.2	4,759	3.1
10月	2,562	▲0.1	2,155	12.5	4,716	5.2

注：前年比は増減、▲は減少。 出所：米商務省（DOC）

- アセアンからの輸入は 15.0%増と、主要地域の中では最も大きく伸びている。このうち、ベトナムは 24.7%増、カンボジアは 21.3%増、インドネシアは 20.6%増、フィリピンは 11.1%増と何れも二桁増となった。一方、タイは、衣料品は伸びたが、織物とその他繊維製品の不調で 1.5%減となった。なお、アセアンからの輸入は衣料品が主力で、全体の 74%を占めている。
- NAFTA パートナーからの輸入は低迷し、衣料品とその他繊維製品を中心とするメキシコは 10.6%減、糸と織物主体のカナダは 16.9%減となり、両国合わせて 13.3%減となった。なお、供給国の順位は、メキシコが第 3 位、カナダが第 5 位となっている。
- また、CBI からの輸入も 8.3%減と低調であり、そのうち、エルサルバドルが 18.5%減、

ドミニカ共和国が 18.4%減、ホンジュラスが 8.0%減と、主要国は何れも減少となった。  
 なお、CBI からの輸入は、アパレルが 97%と殆どを占めている。

- EU(15カ国)からの輸入は、主力のイタリーとドイツが共に織物の不振でそれぞれ 18.0%、11.6%の減少となり、全体で 9.3%減となった。

米国の繊維品輸入推移（主要地域・国別）

単位：100万SME、%

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年 1-10月	前年 同期比
全世界	32,812	38,288	42,227	46,936	50,839	44,122	3.1
NAFTA	7,558	7,722	7,238	7,373	6,892	5,052	▲13.3
メキシコ	4,290	4,335	3,926	4,101	3,883	2,934	▲10.6
カナダ	3,268	3,387	3,312	3,272	3,009	2,118	▲16.9
CBI	3,704	3,830	4,046	4,168	4,169	3,177	▲8.3
ホンジュラス	1,032	1,099	1,165	1,209	1,262	959	▲8.0
エルサルバドル	768	817	895	895	897	620	▲18.5
ドミニカ共和国	773	743	758	772	725	498	▲18.4
ビッグ4	5,911	9,348	12,633	16,128	20,595	18,840	8.1
中国	2,211	4,963	8,288	11,662	16,766	15,500	8.8
韓国	1,383	2,032	2,097	2,301	2,028	1,798	8.3
台湾	1,224	1,391	1,356	1,302	1,083	996	8.7
香港	1,092	962	892	862	721	546	▲9.5
アセアン	4,390	4,766	4,980	5,140	5,145	4,920	15.0
タイ	1,308	1,316	1,098	1,114	1,052	865	▲1.5
インドネシア	1,165	1,215	1,151	1,275	1,354	1,365	20.6
フィリピン	916	817	794	711	643	598	11.1
ベトナム	33	358	827	905	950	989	24.7
カンボジア	389	474	561	673	740	735	21.3
EU(15カ国)	1,868	2,055	2,059	2,063	1,912	1,454	▲9.3
イタリー	521	518	533	462	385	270	▲18.0
ドイツ	457	551	484	479	453	332	▲11.6
その他	9,381	10,567	11,272	12,064	12,126	10,679	4.5
パキスタン	2,189	2,537	2,690	2,970	3,291	3,068	12.4
インド	1,250	1,545	1,666	1,915	2,335	2,244	14.0
バングラデシュ	1,169	1,150	1,110	1,109	1,314	1,282	14.7
トルコ	871	1,068	1,026	982	844	621	▲14.8

- 上記の主要地域に含まれない「その他地域」からの輸入では、バングラデシュが 14.7%増、インドが 14.0%増、パキスタンが 12.4%増と大幅な増加となった。これらの東アジア諸国は、いずれも「ポスト・クォータ」のメリットを活かして、衣料品とその他繊維製品を

中心に対米輸出を活発に推進している。なお、このうち、パキスタンが供給国第2位、インドが同第4位に位置している。

## ◎ 2006年11月の米大手小売店販売、2%増

米国の国際ショッピング・センター協会（ICSC）が纏めた「米チェーン・ストア販売動向レポート」によると、米大手小売店54社の2006年11月の売上高は前年同月比（既存店比、以下同じ）2.1%増となった。この伸び率は、2006年では3月の1.9%に次ぐ低い伸び率である。

エコノミストは、11月の低い伸び率の要因として、前年同月の南部を中心としたハリケーン後の補充購買などによる高い伸び率（3.5%）との比較、11月第1週頃の暖かな天候が冬物衣料需要の足を引っ張ったこと、ガソリンの値下がりによりガソリン販売関連ストア（ホールセール・クラブなど）の売上高が低下したことを挙げている。

米大手小売店の売上高の伸び率推移

単位：%

年 月	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
1	5.7	4.8	5.2	1.8	5.9	3.6	5.0
2	6.0	3.1	6.2	0.9	6.8	4.9	3.2
3	2.1	1.7	6.4	-0.2	6.8	4.1	1.9
4	7.9	3.8	1.6	3.1	3.7	2.2	6.6
5	5.0	1.5	3.4	2.0	5.4	2.9	4.5
6	3.7	2.8	5.1	2.4	2.6	5.2	2.6
7	4.4	3.4	2.6	4.2	3.8	3.6	3.9
8	4.2	3.6	1.6	4.9	1.3	3.6	2.9
9	4.3	0.9	1.5	5.8	2.4	4.0	3.8
10	3.8	2.3	3.1	2.4	4.1	4.4	3.0
11	4.0	2.1	0.0	3.3	1.7	3.5	2.1
12	0.7	2.2	1.0	4.3	2.7	3.2	
年間平均	4.0	2.6	3.1	2.9	3.8	3.9	

注：伸び率は前年同月比（既存店比）の増減を示す。

（11月第4木曜日＝23日）、翌日のブラック・フライデー（24日）、週末の土曜日（25日）を中心に多くの百貨店や高級品店が大々的に販売促進キャンペーンを展開したことによる。

11月のストア・タイプ別販売状況は、以下の通り。

- 大手百貨店の11月の販売は、一部を除き、概ね順調に推移した。特に、高級百貨店は、富裕層の旺盛な購買に支えられて、サクスが7.2%増、ノードストロムが5.4%増、ニーマン・マーカスが2.9%増と、何れも売上げを伸ばした。

11月のストア・タイプ別販売では、百貨店が4.6%増と順調に推移したのに対し、衣料品専門店チェーンは0.2%増、ディスカウント・ストアは1.0%増と共に微増にとどまった。これは、ここ数カ月の購買パターンと同様に、消費者がファッション衣料品等の購買先の主力を百貨店や高級品店に移行していることに加え、クリスマス商戦がスタートした感謝祭

このうち、サクスは、ファッション商品の宣伝と販促が奏功して大幅増となった。同社は「商品としては、女性用のコンテンポラリーとモダン・コレクション、“ゴールド・レインジ”、デザイナー・ブランドの各アパレル、男性用のスポーツウェアとアクセサリー、インティメート・アパレル、子供用アパレルがベスト・セール品目であった」と説明している。

また、ニーマン・マーカスは、地域では南東部と西部、商品では女性用のデザイナー・ブランドとイブニング・アパレル、男性用アパレルの販売が好調であった。

中級百貨店では、ボン・トン・ストアーズが 10.5%減、ディラードが 3.0%減と前年を下回ったが、フェデレーテッドは 8.5%、コールズは 3.7%、J.C.ペニーは 1.4%のそれぞれ増加となった。

このうち、J.C.ペニーは、「11月のベスト・セール品目は子供用品と家庭用品であり、また地域では引続き西部と南東部が好調であった」と説明している。

○ 大手衣料品専門店チェーンの 11月の販売は、全体として斑模様であった。

衣料品専門店チェーンのうち、若者向け専門店では、アメリカン・イーグル・アウトフィッターズが 14.0%増、リミテッド・ブランドが 12.0%増と大幅に伸びたが、エアロポステールは 1.0%の微増にとどまり、ギャップは 8.0%減、パシフィック・サンウェアは 3.8%減、アバークロンビー&フィッチは 3.0%減と落込んだ。

このうち、大幅増となったアメリカン・イーグル・アウトフィッターズの首脳は、「11月の販売一特に、感謝祭、ブラック・フライデー、週末の土曜日の販売一に満足している。クリスマス・ホリデー用コレクションに対する顧客（ティーン）とその両親からの反応は良好である」と説明している。

2006年11月の米主要小売店の販売状況

単位：100万ドル、%

小売店名	売上高	
		前年同月比
<b>&lt;百貨店&gt;</b>		
ボン・トン・ストアーズ	367	-10.5
ディラード	551	-3.0
フェデレーテッド	2,385	8.5
J.C.ペニー	1,616	1.4
コールズ	1,678	3.7
ニーマン・マーカス	324	2.9
ノードストロム	749	5.4
サクス	275	7.2
<b>&lt;衣料品専門店チェーン&gt;</b>		
アバークロンビー&フィッチ	283	-3.0
アメリカン・イーグル・アウトフィッターズ	247	14.0
アン・テラー・ストア	186	-4.3
ドレス・バーン	108	4.0
エアロポステール	150	1.0
ギャップ	1,400	-8.0
リミテッド・ブランド	938	12.0
パシフィック・サンウェア	111	-3.8
<b>&lt;ディスカウント・ストア&gt;</b>		
ターゲット	5,119	5.9
TJX	1,600	3.0
ウォル・マート	28,570	-0.1

また、リミテッド・ブランドは、傘下小売店では、リミテッド・ストア（女性用衣料品店）が1%増、エクスプレス（男性・女性用衣料品店）が7%増、ビクトリアズ・シークレット（女性用下着店）が14%増、バス・アンド・ボディワークス（バス用品店）が16%増と、いずれも前年を上回った。

一方、衣料品専門店チェーン最大手のギャップは、傘下ストアがいずれも不振で、バナナリパブリック（高級志向の衣料品店）が1%、ギャップ・ストア（ティーンエイジャー向け主体の衣料品店）が7%、オールドネイビー（低価格路線の衣料品店）が10%のそれぞれ減少となり、全体で10カ月連続のマイナスとなった。

キャリアウーマン向け衣料品専門店チェーンの販売では、ドレス・バーンは4.0%増と順調に伸びたが、アン・テラー・ストアは4.3%の減少となり、明暗が分かれた。

このうち、アン・テラー・ストアの首脳は「11月の販売減は、前年同月の大幅増（12.9%増）との比較に加え、セーター、アウターウェア等の冬物商品が季節外れの暖かな天候の影響で伸びなかったことによる」と発表している。

- 大手ディスカウント・ストアの11月の販売は、ターゲットが5.9%増、T J Xが3.0%増と堅調に推移したが、ウォル・マートは0.1%の微減となった。

このうち、米小売店最大手のウォル・マートは、11月の販売としては約10年ぶりのマイナスとなった。同社首脳は、「食料品と日用雑貨品は堅調であったが、ホーム用品と衣料品は苦戦した」と語っている。



## ◎ 2006年1～9月の繊維品域外貿易・輸出は微増、輸入は2桁の増加

EU 統計局 EUROSTAT によれば、2006年1～9月のEUの繊維品輸出はドルベースで、前年同月比3%増の356億2,079万ドル、輸入は10%増の761億4,591万ドルと、輸出は微増、輸入は2桁の増加推移となっている。

### <輸 出 状 況>

輸出を地域別にみると、欧州が46%のシェアを占め5%増、続いて東アジア（シェア18%）が3%増、北米（シェア14%）が2%減、アフリカ（シェア12%）が1%減となっており、この4地域で全体の89%を占めている。

国別のベスト10は、米国（43億3,369万ドル：3%減）、スイス（35億8,673万ドル：1%増）、ロシア（28億2,621万ドル：25%増）、ルーマニア（25億2,674万ドル：4%減）、トルコ（19億

1,484万ドル:7%増)、日本(17億6,712万ドル:5%減)、香港(15億1,554万ドル:4%増)、  
チュニジア(15億891万ドル:5%減)、モロッコ(13億6,648万ドル:3%減)、ノルウェー  
(10億5,273万ドル:1%増)の順となっている。

これを2005年年間と比較すると上位10カ国の内容は変わらないが、ロシアが4位から  
3位へ、香港が9位から7位へ躍進し、一方ルーマニアは3位から4位へ、チュニジアは7位  
から8位へ、モロッコは8位から9位へ各々下がっている。

品目別の輸出では、原料関係の輸出は、綿類の輸出が、数量で12%増の65万4,811トン、  
金額で10%増の13億286万ドルと数量、金額共に好調に推移、糸類の輸出は、数量で3%増の  
33万587トン、金額で4%増の22億3,681万ドルと数量、金額共に堅調な推移となった。

一方、織物類の輸出は、数量で3%減の20億2,443万SM(平方メートル)、金額で5%減の  
68億3,482万ドルと数量、金額共に低調な推移となった。

織物類輸出の内訳は、主力の綿織物が数量で5%減の7億4,719万SM、金額で6%減の  
27億1,502万ドル、合繊長繊維織物が数量で横ばいの6億1,201万SM、金額で4%減の  
9億9,845万ドル、合繊短繊維織物が数量で3%減の3億953万SM、金額で5%減の9億246  
万ドル、毛織物が数量で5%減の1億3,738万SM、金額で2%減の13億1,183万ドルで、  
主要品目は、何れも低調な推移となっている。

他方、EUの繊維品輸出の42%を占める最大輸出品目の衣料品の輸出は、ニット製衣料品が  
5%増の51億2,992万ドル、布帛製衣料品が3%増の97億1,308万ドルと堅調に推移しており、  
EUの輸出を牽引している。

## <輸 入 状 況>

輸入については、地域別では、東アジアからの輸入が61%を占め16%増、続いてヨーロッパ  
(シェア25%)が2%増、アフリカ(同:9%)が横ばいとなっており、この3地域で全輸入の  
95%を占めているが、中国には枠が再設定されたものの、その他の東アジアからの輸入増が  
目立っている。

国別のベスト10は、中国(219億3,801万ドル:6%増)、トルコ(106億9,492万ドル:  
3%増)、インド(58億5,030万ドル:15%増)、バングラデシュ(46億4,296万ドル:34%  
増)、ルーマニア(37億1,302万ドル:2%減)、香港(26億8,730万ドル:145%増)、チュニジア  
(25億254万ドル:3%減)、モロッコ(22億7,506万ドル:1%増)、パキスタン(21億5,490  
万ドル:11%増)、インドネシア(17億5,475万ドル:25%増)の順となっている。

2005年から枠が撤廃され、中国、インドがこの恩恵を受けて輸出を大きく伸ばしたが、2006年は、  
中国に枠が再設定され、中国からの輸入は減速しているが、その他香港、インド、バングラ  
デシュ、インドネシア、パキスタン等の東アジアからの輸入増大が2006年の大きな特徴と  
なっている。

2006年1～9月のEUの繊維品輸出入状況

	輸 入						前年比
	2005年実績		2006年(1～9)		数量	金額	
	数量	金額	数量	金額			
繊維品合計							
原料(綿)合計	TON	90,716,208	1,508,159	3,169,455	1,069,837	76,145,912	92
スフ綿	TON	34,237	80,551	31,456	70,057		120
合繊綿	TON	459,324	804,296	339,574	586,839		98
(ポリエステル)	TON	376,864	542,428	282,328	390,560		99
(アクリル)	TON	34,330	85,255	21,170	53,685		85
糸合計	TON	1,153,323	3,830,677	947,846	3,243,872		108
人絹糸	TON	16,989	84,303	13,103	65,520		94
スフ糸	TON	58,465	175,896	60,818	186,328		138
合繊長繊維糸	TON	486,738	1,525,951	382,358	1,189,767		102
(ナイロン)	TON	77,557	358,080	60,014	282,587		100
(ポリエステル)	TON	355,842	813,626	272,909	615,499		101
合繊短繊維糸	TON	152,389	527,418	127,517	450,897		115
綿糸	TON	313,854	998,787	270,012	907,294		120
織物合計	千SM	5,933,666	5,052,045	3,746,010	4,010,478		78
絹織物	千SM	89,155	304,183	54,553	244,611		80
人絹織物	千SM	543,422	122,407	103,954	95,078		20
スフ織物	千SM	129,266	152,458	83,968	108,234		82
合繊長繊維織物	千SM	1,584,896	1,293,238	876,978	988,834		66
(ナイロン)	千SM	50,994	66,042	36,153	50,124		95
(ポリエステル)	千SM	1,010,044	723,795	489,214	515,126		54
合繊短繊維織物	千SM	1,070,762	819,766	857,436	729,339		105
綿織物	千SM	2,259,290	1,965,809	1,582,383	1,537,923		89
毛織物	千SM	32,170	184,140	29,229	150,649		120
不織布			585,151		504,229		110
タイヤコード織物	千SM	118,627	197,482	94,015	156,105		102
コーティング織物	千SM	144,210	241,852	123,489	205,863		111
ニット生地			774,266		674,512		115
ニット製衣料			29,738,611		25,312,243		112
布帛製衣料			36,513,454		30,835,600		109
その他			10,258,213		8,423,914		109

  

	輸 出						前年比
	2005年実績		2006年(1～9)		数量	金額	
	数量	金額	数量	金額			
繊維品合計							
原料(綿)合計	TON	45,369,494	35,620,788	654,811	1,302,857	112	110
スフ綿	TON	65,234	166,057	51,583	116	119	
合繊綿	TON	202,191	478,527	101,730	281,281	64	75
(ポリエステル)	TON	15,389	32,210	9,325	19,297	77	77
(アクリル)	TON	142,050	304,579	50,284	126,579	44	52
糸合計	TON	433,457	2,911,327	330,587	2,236,808	103	104
人絹糸	TON	13,219	98,683	9,557	68,037	104	98
スフ糸	TON	19,542	93,721	15,595	74,994	106	105
合繊長繊維糸	TON	272,010	1,372,029	206,472	1,073,052	103	107
(ナイロン)	TON	133,695	688,307	99,430	550,766	100	107
(ポリエステル)	TON	56,149	197,198	44,670	159,713	107	110
合繊短繊維糸	TON	43,996	372,903	34,989	255,421	108	95
綿糸	TON	45,088	304,091	33,196	221,489	98	98
織物合計	千SM	2,813,353	9,619,159	2,024,433	6,834,815	97	95
絹織物	千SM	20,906	293,898	14,783	202,753	101	96
人絹織物	千SM	110,108	306,481	72,255	205,111	90	90
スフ織物	千SM	118,406	373,360	87,372	259,193	101	92
合繊長繊維織物	千SM	820,245	1,395,006	612,008	998,445	100	96
(ナイロン)	千SM	54,877	147,670	41,841	117,272	101	100
(ポリエステル)	千SM	301,564	602,566	213,383	407,577	95	90
合繊短繊維織物	千SM	419,470	1,232,960	309,528	902,458	97	95
綿織物	千SM	1,067,223	3,925,447	747,191	2,715,023	95	94
毛織物	千SM	179,855	1,674,847	137,375	1,311,829	95	98
不織布			1,075,369		899,826		111
タイヤコード織物	千SM	45,573	95,573	34,549	89,274	101	119
コーティング織物	千SM	350,609	976,106	284,526	745,308	100	100
ニット生地			1,805,873		1,379,661		104
ニット製衣料			6,347,993		5,129,918		105
布帛製衣料			12,086,908		9,713,084		103
その他			7,206,238		5,676,572		105

(注) 繊維品合計と各品目の累計が合致しないが、EU統計原本どおり。

出所: ユーロスタット

品目別輸入では、原料では、綿関係が数量で 8%減の 106 万 9,837 トン、金額で 4%減の 23 億 4,257 万ドルと数量、金額共に減少推移、糸関係は、逆に、太宗の綿糸等が大幅に増加し、数量で 8%増の 94 万 7,846 トン、金額で 11%増の 32 億 4,387 万ドルと数量、金額共に増加している。

織物関係では、太宗の綿織物の輸入が、数量で 11%減の 15 億 8,238 万 SM、金額で 2%増の 15 億 3,792 万ドルと数量減の金額微増、合繊長繊維織物が数量で 34%減の 8 億 7,698 万 SM ドル、金額で横ばいの 9 億 8,883 万ドルと何れも低調推移、一方、合繊短繊維織物は数量で 5%増の 8 億 5,744 万ドル、金額で 17%増の 7 億 2,934 万ドルと高い伸びとなった。

また、全体の輸入の 74%を占める衣料品の輸入は、ニット衣料品が 12%増の 253 億 1,224 万ドル、布帛製衣料品も 9%増の 308 億 3,560 万ドルと、中国に枠が再設定されたが、その他の東アジア諸国を中心に高い伸び率を記録している。

## 組合関係の会議と催事

【2006年12月】

### 輸出入

I. 「第2回上海分会」を開催。

### 輸出

I. 繊維団体新年名刺交換会打合せ会が開催。

### 輸入

I. 「第4回組合運営に関するタスクフォース」ほか各委員会を開催。  
II. 繊維貿易情報センター主任研究員がタイとインドで現地調査を実施。

1日（金）

輸入（東京）貿易制度専門委員会「第11回関税評価G」（神谷G長）が開催され東京税関業務部・齊藤特別価格審査官（評価第2）付上席調査官並びに三浦統括調査官（評価3部門）付上席調査官より「関税定率法基本通達の一部改正」について説明があり、併せて情報交換が行われた。

3日（日）～10日（日）

輸入（タイ）繊維貿易情報センター・古宮主任研究員がタイで現地調査。

4日（月）

輸出（大阪）繊維団体新年名刺交換会打合せ会が開催され、2007年の「新年名刺交換会出席者名簿」の作成等について検討が行われた。

6日（水）

輸入（大阪）日本黄麻製品輸入協議会「第121回運営委員会」（塩田委員長）が開催され、2006年黄麻製品輸入見通しの策定の後、情報交換が行われた。

8日（金）

輸入（大阪）「第28回綿委員会」（砂山委員長）が開催され①2006年10～12月、2007年1～3月綿糸布輸入見通し策定②2007年1～12月綿糸布年間見通し策定が行われた。

11日（月）～19日（火）

輸入（インド）繊維貿易情報センター・神山主任研究員がインド各地で現地調査。

12日（火）

輸入（東京）「第65回貿易制度専門委員会」（大迫委員長）が開催され①三井住友銀行市場営業推進部・宇野氏より「2007年の為替見通し」について講演の後、委員会として来年の為替見通しについての検討を行い、来年は114.29円/\$を採用

②「日中航路における海上運賃付帯費用の現況」③その他（ICタグの取扱い状況等）についてそれぞれ説明と審議が行われた。

13日（水）

**輸出入**（大阪）近畿財務局の最近の繊維輸出動向及び輸入動向に関するヒアリングがそれぞれ行われた。

15日（金）

**輸入**（鹿児島）「第68回アパレル委員会」（尾川委員長）が開催され①2007年衣類輸入見通し策定②2007年度委員会事業計画について審議が行われた。

19日（火）

**輸出入**（上海）「第2回上海分会」（橋本会長）が開催され、①日中経済貿易センター・村岡上海事務所長より「上海外高橋保税区貿易企業の区外分公司登録問題の経緯と現況」について講演があった後、情報交換が行われ中国の個人所得税申告制度の改正、日中定期便航路秩序化通知ほか種々意見交換が行われた。

21日（木）

**輸入**（東京）「第4回組合運営に関するタスクフォース」（神谷議長）が開催され①組合運営に関するアンケート調査結果②組合の中期収支見通しと賦課金率③商品別・機能別委員会組織変更④新繊維ビジョン策定に向けての組合の対応⑤日中航路の付帯運賃への組合の取組み⑥その他について説明と審議が行われた。

26日（火）

**輸入**（東京）アルゼンチン大使館・サンドラウィンクラー二等書記官他が来所され懇談した。

### 1月のスケジュール（1月9日現在）

4日（木）	<b>輸出</b>	（大阪）	繊維団体新年名刺交換会
5日（金）	<b>輸出入</b>	（大阪）	新年賀詞交歓会（関西地区）
9日（火）	<b>輸出入</b>	（東京）	新年賀詞交歓会（関東地区）
10日（水）	<b>輸出入</b>	（名古屋）	新年賀詞交歓会（名古屋地区）
17日（水）	<b>輸入</b>	（東京）	報告会、「第15回絹委員会」
19日（金）	<b>輸入</b>	（大阪）	「第91回寝具インテリア委員会」
19日（火）	<b>輸入</b>	（東京）	「アパレル委員会正副委員長会議」
24日（水）	<b>輸入</b>	（東京）	「第105回欧州北米専門委員会」
25日（木）	<b>輸入</b>	（大阪）	「第15回化合繊委員会」
29日（月）	<b>輸入</b>	（大阪）	「第84回中国アジア専門委員会」

東京・大阪・名古屋地区で新年賀詞交歓会を開催

日本繊維輸出組合と日本繊維輸入組合の共催による 2007 年新年賀詞交歓会が大阪、東京、名古屋でそれぞれ開催された。

各地での開催概要及び出席者などは以下の通り。

**【関西地区】**

日時： 2007 年 1 月 5 日（金）午後 5 時 ～ 午後 6 時 30 分  
場所： 大阪・輸出繊維会館 BM ホール  
出席者： 約 250 名  
概要： 年頭挨拶 岩竹副理事長  
来賓挨拶 近畿経済産業局 通商部 高畑部長  
乾杯 中西副理事長  
司会 中企画副委員長代理

**【関東地区】**

日時： 2007 年 1 月 9 日（火）午後 5 時 ～ 午後 6 時 30 分  
場所： 東京・飯野ビル「キャッスル」  
出席者： 約 130 名  
概要： 年頭挨拶 山本理事長  
来賓挨拶 経済産業省 製造産業局 内山次長  
乾杯 大塚副理事長  
司会 塘企画委員長

**【名古屋地区】**

日時： 2007 年 1 月 10 日（水）午後 5 時 30 分 ～ 午後 7 時  
場所： 名古屋観光ホテル「桂の間」  
出席者： 約 110 名  
概要： 年頭挨拶 豊島理事  
来賓挨拶 名古屋税関 業務部 杉山部長  
乾杯 三井物産（株） 鎌田中部ライフスタイル事業部長  
司会 岸企画委員

(新年賀詞交歓会／関東地区会場風景)



山本理事長 年頭挨拶



経済産業省 製造産業局  
内山次長 来賓挨拶



大塚副理事長 乾杯

輸 出

◎ 3 運賃同盟、繊維品のスペシャル・レートの適用期間を延長（輸出組合）

輸出組合が西アフリカ運賃同盟、セイロン運賃同盟、フィリピン運賃同盟の3運賃同盟宛に繊維品のスペシャル・レートの適用期間延長を要望していたところ、この度、各同盟より2007年1月1日以降6ヶ月間、従来と同じスペシャル・レートを適用する旨、下記の通り回答があった。

1. 西アフリカ運賃同盟

（単位：US\$）

Commodity	Rate Basis	T/R Rate	TSD Rate		
		Freetown Dakar Conakry Banjul	Cotonou Libreville P. Gentil Pointe Noire Matadi	Monrovia Abidjan Tema Lome Douala	Lagos/Apapa  Port Harcourt
Textiles, Piece Goods & Manufactures	M	a) 216.35 b) 226.90	204.20	151.45	142.90
Textiles, Fibers Yarn & Tow	M	c) 196.85	177.15	137.80	106.65

Note: a) Cotton Piece Goods & Manufactures only

b) Synthetic Piece Goods & Manufactures only

c) Synthetic Yarn only

（注）① T/R Rate = Temporary Reduced Rate

② TSD Rate = Temporary Special Discount Rate

2. セイロン運賃同盟

Item	Rate
Staple Fiber of Rayon, Acetate and Synthetic	US\$ 59.65 per M3
Textile & Manufactured Goods of Synthetic	US\$ 70.15 per M3
Yarn of Rayon, Acetate and Synthetic	US\$ 63.15 per M3

3. フィリピン運賃同盟

Item No.	Commodity	Rate
V-1	Cotton Textile & Yarn & Manufactures & others	\$ 104.50 per KT/M3
V-1	Chemical Textile & Manufactures	\$ 104.50 per KT/M3
V-1	Flax Yarn & Manufacture & others	\$ 104.50 per KT/M3
V-2	Silk, Woolen Textile & Yarn Manufacture & others	\$ 138.75 per KT/M3

※ 適用期間：いずれも2007年1月1日～2007年6月30日

◎ 繊維団体新年名刺交換会の開催（輸出組合）

関西における繊維輸出組合などの繊維業界団体（7団体）による、新年名刺交換会が2007年1月4日、帝国ホテル大阪にて以下の通り開催された。参加者は約430名であった。

1. 日 時 平成19年1月4日(木) 午前11時30分
2. 場 所 帝国ホテル大阪 孔雀西の間（大阪市北区天満橋）
3. 概 要

年頭挨拶	日本羊毛紡績会	会 長	中井 宏明
乾 杯	日本紡績協会	会 長	大西 音文
進 行	日本羊毛紡績会	専務理事	道谷 博志
4. 主催団体

日 本 紡 績 協 会	日本綿化繊糸商業組合
日本化学繊維協会	化学繊維振興会
日 本 綿 花 協 会	日 本 羊 毛 紡 績 会
日本繊維輸出組合	



◎ 繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出組合)

以下に掲げる保険申込書の「保険責任期間」が、平成 19 年 2 月末日に終了しますので、延長を必要とするものがありましたら、必要書類を添付の上、組合に申請してください。保険責任期間が「6 ヶ月」延長されます。

- \* 平成 18 年 8 月に新規提出された決済条件が、「前受け」のもの
- \* 平成 18 年 2 月に新規提出された決済条件が、「前受け」以外のもの

(注) 当初の保険責任期間は「前受け」6 ヶ月、「前受け以外」12 ヶ月となっております。

1. 提出期限：平成 19 年 2 月 20 日 (火)
2. 提出書類：① 貿易一般保険包括保険(繊維品)  
                   保険期間延長依頼書 ..... 2 通  
                   (用紙は事務局で準備しています。)  
                   ② 延長を必要とする包括保険申込書のコピー ..... 1 通
3. 提出先：総務部(☎06-6201-1832)  
           なお、延長手続きの FAX による申込みも可能です。(FAX:06-6201-1814)

保険期間終了の保険申込書番号は以下の通りです。

**前受けに係る 2006 年 8 月度受付保険申込書番号**

記号	受付局区分	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 6		104190～ 104858	102081～ 102328	100173～ 100194
		507935～ 508867		

**前受け以外に係る 2006 年 2 月度受付保険申込書番号**

記号	受付局区分	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 6		100629～ 101228	100284～ 100509	100031～ 100048
		500907～ 502124		

## お知らせ

### ◎ 「東ティモール」向け保険引受方針の変更（輸出組合）

独立行政法人日本貿易保険（N E X I）から、“「東ティモール」（国コード：128）向けの引受方針を緩和し、実施日より適用する”旨連絡がありましたので通知します。

この結果、以下の取扱いとなります。

#### 1. 引受基準（条件付引受停止国から条件付引受国）

〈国コード〉	〈国名〉	〈国倍率〉	〈引受限度額〉	〈 ILC 取得条件〉
128	東ティモール	8.0 倍（据置）	5 億円	有り

#### 2. 実施日：平成19年1月5日

- \* 国倍率（地域差料率）とは、非常危険てん補に係る保険料計算に適用される基本料率に対して掛けられる倍率です。

なお、ユーザンスが6ヶ月を超えるものは、ベルン・ユニオンのルールに基づき、従来どおり引受けられません。

## お知らせ

－ 2007 年 2 月の輸入通関手続相談窓口開設日 －

2007 年 2 月の輸入通関手続相談窓口は下記要領により開設します。  
申告手続、品目分類、関税評価、暫 8 手続等々通関業務諸問題  
についてご相談の向きはご連絡下さいますようお願い申し上げます。

### 記

1. 開催日 2007 年 2 月 14 日（水）及び 2 月 28 日（水）
2. 場 所 日本繊維輸入組合 東京本部
3. 時 間 午後 1 時より午後 5 時まで
4. アドバイザー 片山 喬次

（元東京税関関税評価部門特別価格審査官）

5. 連絡先

Tel 番号 03（3270）0791

Fax 番号 03（3243）1088

E - Mail 0023@j t i a . o r . j p（片山）

なお、事前の面談申込みや相談窓口開設日以外のお問い合わせ、  
ご質問につきましては、事務局がお取次ぎ致しますので、本件  
事務局担当：国信までご連絡下さい。

以 上

## 組合員情報

### ◎ 組合員の脱会

（輸出） 立林商事株式会社（2006 年 12 月 19 日付け）